

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2018 年 6 月 27 日（水）

報告番号：甲・㊦ 第 2142 号		氏名：細川 勇一	
論文審査 担当者	主査 教授 河地 茂行 印	副査 教授 河合 隆 印	
		副査 教授 黒田 雅彦 印	
<p>審査論文の題目： Surgical outcomes of pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer with proximal dorsal jejunal vein involvement. (膵頭部癌における proximal dorsal jejunal vein の解剖学的分類および resectability に関する検討)</p> <p>著 者： Yuichi Hosokawa, Yuichi Nagakawa, Yatsuka Sahara, Chie Takishita, Tetsushi Nakajima, Yosuke Hijikata, Hiroaki Osakabe, Tomoki Shiota, Kazuhiro Saito, Hiroshi Yamaguchi, Keiichiro Inoue, Kenji Katsumata, Takayoshi Tsuchiya, Atsushi Sofuni, Takao Itoi, Akihiko Tsuchida</p> <p>掲載誌： Journal of Gastrointestinal Surgery 2018 Mar 8. doi: 10.1007/s11605-018-3722-0. [Epub ahead of print]</p>			
<p>論文要旨：</p> <p>膵頭部癌の手術において、NCCN ガイドラインでは近位空腸静脈浸潤を伴う膵頭部癌は unresectable と定義されているが、日本の膵癌取り扱い規約では resectable であり、この乖離は近位空腸静脈の解剖学的 variation によると考えられる。しかし近位空腸静脈の走行を詳細に検討した報告はほとんどなく、膵癌の近位空腸静脈浸潤について検討した報告も認められない。2011 年 10 月～2017 年 3 月までに膵頭部癌に対して膵頭十二指腸切除を行なった 121 例を対象に、術前 MDCT から十二指腸下縁より頭側に存在する下膵十二指腸静脈をドレナージする空腸静脈を proximal dorsal jejunal vein (PDJV) と定義し、解剖学的 variation を検討するとともに PDJV 浸潤を伴う膵頭部癌の切除成績を検討した。MDCT にて近位空腸静脈の解剖学的 variation は 7 タイプに分類され、PDJV は 104 例（94%）に認めた。13 例に PDJV 浸潤を認めた。PDJV 浸潤の有無では、手術時間や出血量、合併症発症率、リンパ節転移や SMV 合併切除率、R0 達成率などに有意差はなかった。生存率の検討でも両群に有意差を認めなかった。十二指腸下縁より頭側の近位空腸静脈は解剖学的に 7 タイプに分類され、PDJV 浸潤陽性の膵頭部癌でも、外科的切除により浸潤陰性例と同等の予後が期待できる可能性が示唆された。</p>			
<p>審査過程：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の背景、目的、先行研究に関して適切に説明できた。 2. ガイドラインによる resectability の乖離についての的確な説明がなされた。 3. 空腸近位静脈の解剖学的 variation について適切な説明がなされた。 4. PDJV 浸潤の術前画像診断における定義と切除手技についての的確な説明がなされた。 5. 本研究の臨床的意義と今後の展望について適切な回答が得られた。 			
<p>価値判定：</p> <p>本研究は、空腸近位静脈の解剖学的 variation について詳細に検討し 7 つのタイプにわかれることを見出し、PDJV 浸潤を伴う膵頭部癌の切除が安全に施行可能であることと共に良好な切除成績を示したもので、より安全な膵頭部癌手術に大きく寄与するとともに、欧米のガイドラインにも影響を与える可能性があり、学位論文としての価値を認めた。</p>			